
転生者の波乱生活

A・O・Jカタストル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

転生者の波乱生活

【Nコード】

N2874Z

【作者名】

A・O・Jカタストル

【あらすじ】

俺は遊戯王GXの世界に転生したらしい。そして俺に性格がまったく違う精霊がついた。これからの生活はどうなるのか……？シンクロありエクシーズもできれば出したいと思っています。オリカも出ます。よろしく願います。

始まり（前書き）

0話

今回は決闘なしです。大輝の精霊が登場します。

始まり

今、俺、まじはらひるあき松原大輝は入学試験を受けるため決闘アカデミアにいる。何でも最近まで現実世界でいたのにGXの世界に転生したらしい。そして、今クロノスと十代が決闘している。

「フレイムウイングマンで古代の機械巨人を攻撃！！スカイスクレーパーの効果で攻撃力は1000ポイントアップするぜ！！スカイスクレーパーシユート！！この瞬間
フレイムウイングマンの効果発動！！破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与えるぜ！！」

「ペペロンチーノ」

「ガツチャー！！楽しい決闘だったぜ！！」
十代が勝ったみたいだな。

「???」
「マスター、彼、恐ろしいドロー力を持っていますね。???」
「大輝も決闘したら負けるかもね」
俺のことをマスターと呼ぶおとなしい性格の薄緑の髪の少女がガスタの静寂カームで大輝と呼ぶ活発な性格の赤い髪の少女がリチュア・エミリアだ。今は俺以外には見えてないが実体化もできるらしい。しかし、この二人はいつ見てもかわいいな…それとエミリア、確かにお前には同意見かもしれない。十代のチートドローは異常だからな。

エミリア「大輝、呼ばれたよ。」
試験官に呼ばれたらしい。

「ああ、いつてくる。」

カーム「頑張ってくださいね！！」

ステージに上がるとクロノスがいた。

「シニョール松原には

ワタクシ自らが直々に相手するノ〜ネ（グフフ、圧倒的に倒して汚

名返上なノ〜ネ」

どうせクロノスのことだから十代の汚名返上とか考えているんだろ。

「では始めるノ〜ネ。」

「決闘!!」

始まり（後書き）

エミリア『大輝の

精霊のリチュア・エミリアと、』カーム『ガスタの静寂カームです。
よろしく願います。』

エミリア『次回はクロノスとの決闘ね』

カーム『古代の機械は大型モンスターと伏せカードを封じる効果
が厄介ですね。マスター頑張ってください。』

vsクロノス（前書き）

クロノスとの決闘です。シンクロ召喚の初登場です。

V S クロノス

「先行はシニョールにゆずるノ〜ネ。」

「分かりました、俺のターン、ドロ〜！（チツ：手札が悪いな…。）俺は魔轟神クルスを攻撃表示で召喚する。ターンエンド。」
大輝の場に悪魔の少女が現れる。

「???」彼、少し迂闊ね。攻撃力が低いモンスターを攻撃表示、

しかも伏せカード無し。期待外れだったかしら。」

「???」さあな…だが何やら考えはありそうだ。」

「???」彼は一体何がしたいんだ!？」

「???」(かわいいモンスターが現れたっすね。)でも攻撃力1000じゃあすぐにやられてしまうっすよ。」

「???」何をするつもりなんだあいつ?わくわくするな。」

聞こえてますよ皆さん、上から明日香、亮、エアーマン、翔、十代だろ!!カームとエミリアも近くで応援してくれているな。まああの二人は知っていると思うがクルスを攻撃表示で出したのは手札事故とフィールドアドバンテージをとるためだ。まあ見てろ。

「ワタシのターン、ドロ〜ニヨ!!!（魔轟神…?見たことないカードなノ〜ネ。ここは一気にいくノ〜ネ。）ワタシは二重召喚を発動するノ〜ネ。このカードの効果でこのターン二回通常召喚できるノ〜ネ。ワタシはトロイホースを召喚するノ。トロイホースは地属性モンスターの生け贄召喚に使用される場合、一体で二体分として扱うことができるノ〜ネ。トロイホースを生け贄に捧げ、古代の機械巨人を召喚するノ〜ネ。古代の機械巨人で魔轟神クルスを攻撃!!!アルティメットバウンド!!!」

「この瞬間、手札のオネストの効果発動!!!光属性が戦闘を行う

場合、このカードを手札から捨てることで相手モンスターの攻撃力分そのモンスターの攻撃力がアップする。「何でス〜ト!」迎撃しろ!!魔轟神クルス!」

古代の機械巨人が破壊される。

古代の機械巨人

攻撃力3000

魔轟神クルス 攻撃力4000

クロノスLP3000

「グヌヌ……ターンエンドなノ〜ネ。」

かなり悔しそうな顔をするクロノス、そりゃ切り札が攻撃力1000のモンスターに破壊されたからな…。

「俺のターン、ドロ〜!!」よし、このターンで決める!!

「俺はチューナーモンスター、魔轟神レイヴン召喚!!」

「「チューナーモンスター!?!?!」」

やはり知らないようだな。

「チューナーとはシンクロ召喚に必要なモンスターで所謂スピリットやトゥーンと同じような扱いと思っして下さい。そしてシンクロ召喚とは制約があるものもありますが基本的にチューナーとチューナー以外のモンスターを1体以上場からリリ、生け贄にすることでそのレベルの合計と等しいシンクロモンスターをエクス、いや融合デッキから特殊召喚します。まあ融合とよく似たものだと思っして下さい。」

「よく分かった

ノ〜ネ。」

「今からそれを見せますよ。魔轟神レイヴンの効果発動!!手札を任意の枚数捨てることでその枚数×300ポイント攻撃力がアップしレベルもあげる。俺は3枚捨てる!!さらに捨てられた暗黒界の武神ゴルド2体の効果発動!!手札からカードの効果により捨てられた場合、特殊召喚する!!レベル5の魔轟神レイヴンにレベル5のゴルドをチューニング!!混沌の光の魔王よ今ここに降臨せ

よ！！魔轟神レヴユアタン！！レヴユアタンでダイレクトアタック
！！」

魔轟神レヴユアタン

攻撃力3000

「ペペロンチーノオ！！」クロノスLPO

sideカーム&エミリア

『予想通りマスターが勝ちましたね。』

『じゃあ早く大輝のところに戻りましょ。』

side十代

「（すげえ、すげえよ。シンクロ召喚！！早くあいつと決闘したいぜ！！）」

明日香side

「（何て奴なの！？クロノス先生に勝つなんて！！それにシンクロ召喚なんて一度もみたことないわ！！……………そしてもう一つ気になるのは私の近くにいた赤い髪と緑の髪の女子。制服を着てなかったし女子寮にもそんな子いなかったわ……………。他の皆は試合に夢中で気がついてなかったらしいけど…。彼女達は何者なの？）」

試験後

「お前ら実体化してただろ！！」

『ギクツ！？』

「皆気づいてなかったが俺には分かった。」

『駄目ですか（なの）』ウルウル

「涙目で見なくても多少目立ってもいいなら別に実体化くらいは

問題ないさ。」

『『マスター（大輝）』』

そうやって抱きついてくる精霊達。実体化してるのでいろいろ当たってます。まあこうした生活も悪くないしいつも世話になってい
るから彼女達の要望も少しは聞いてやらないとな。

vsクロノス（後書き）

クロノスとの決闘でした。

エミリア『今日の最強カードはオネストね』

カーム『光属性モンスターが戦闘をするときこのカードを手札から墓地に送ることで相手モンスターの攻撃力分そのモンスターの攻撃力がアップします。光属性ではほぼ必須といえますがマクロコスモスなどの除外やマインドクラッシュなどには弱いです。』

今回はブルーとの決闘です。精霊の彼女達も決闘します。

精霊（前書き）

今回は決闘がありません。また、三幻神、三幻魔、三邪神、ネオス系、Dヒーロー、宝玉獣は使えない設定でお願いします。（地縛神は普通に使い、影響を与えないものとします。）

精霊

クロノスとの決闘後、結果がきた。結果は合格……それはいいんだがオシリスレッドだった。おそらくクロノスの仕業だろう。クロノスめ……。

そして今はアカデミアへの船に乗っている。皆がジロジロ俺を見ているんだが……なるほど、今の現状なら納得だ。だって俺の両脇にカームとエミリアが実体化しているんだもん。そりゃ制服も着てない女の子がいたら不思議に思うよな。

カーム『マスター、周りの視線が凄いですね、一旦カードに戻りましょうか？』

カームが聞いてきた。

エミリア『やっぱり戻ったほうがいいかもね……これ以上迷惑かけたくないし……』

エミリアもそう言っている。そんな悲しそうな顔するなよ。

「別にお前達がいたけりゃいいいさ。俺は問題ないよ。」

カーム『マスター／／／／』

エミリア『大輝／／／／』

「カーム、エミリア／／／／」

やべ、こいつらかわいすぎる……！

???『お〜い！お前だよな魔轟神とかいうモンスターを使ってクロノス先生に勝ったのは……！』

出たよ十代……十代、空気読んでくれ……！せつかくいいムードだったのに。

「ああ、そつだが、お前は十代だよな！？俺は松原大輝だ。大輝と呼んでくれ……！」

「知っていたのか……！宜しくな……！そつちの女の子達は？」

「俺の精霊だ。実体化している。」

カーム『私はガスタの静寂カームです。カームと呼んで下さい。宜しく願います。』

『私はリチュア・エミリアよ エミリアでいいわ!! 宜しくね!!』

「おう、二人とも宜しくな!! さて、大輝、決闘しようぜ!」

どうしてそうなる!? なんで自己紹介の後の第一声がそれなんだよ!! どんだけ決闘バカなんだ!!

「悪いな、今疲れていてな。また後でやろうぜ!!」

「チエ! 分かったよ。絶対だぜ!!」

そうこうしているうちに島についた。そして寮についたのだが…

…ボロい、ボロすぎる!! こんなところで生活しようというのか!!

「じゃあな、大輝! 後で決闘な!!」

「ああ、分かった。」

こいつは決闘さえあれば疲れも忘れるのか!?

仕方ない、俺達も休むとするか。

しばらく休んでいたら予想通り十代がやってきた。

「大輝!! 決闘やろうぜ!!」

はあ、分かったよ。まあ約束したしな。

「よし、決闘場いくぞ十代!!」

カーム『マスター、私達はもう少し休んでますね。』

エミリア『留守番は任せて!!』

「ああ、行ってくる。』

決闘場についたはいいが、なんかブルーの連中が威張り散らして

いる。 「邪魔だ邪魔だ!!ここはお前達のようなドロップアウトが使う場所じゃないんだよ!!」

「ブルーだからって威張るなよ…。威張ることしかできないのか!?!」

「何だと!? 貴様、決闘だ!! 格の違いを教えてやる!!」

何で十代と決闘してきたのにこいつと決闘しなけりゃなんのだ。仕方ない、やってやる。そして構えた時、

??? 「お前達、何をしている!?!」

万丈目か。

「万丈目さん、こいつらが勝手に使おうとしていたんすよ!!」
ブルー生徒が説明する。

「何!?! だつたらだつたら決闘し

??? 「あなた達、ここで何をしているの!?!」

天城院君!?!」

万丈目「いやあ、こいつらにブルーの実力を見せてやるうと思つてね…」 「もうすぐ歓迎会が始まるわよ。早く戻ったほうがいいわ。」

万丈目は渋々取巻きを連れて帰った。

「あなた達も彼らに関わらないほうがいいわ。彼らの実力は本物よ。」

「チツ、せっかく新デッキの実験台になつてもらおうと思つたのに。十代、帰るぞ!!」

帰り道

「チエ、決闘したかつたな」

安心して下さい。今夜できるから。

??? 「アニキ!! どこに行っていたんすか?」

この水色は丸藤翔か。

「おう、翔!! ちよつと呼び出し喰らつてな。紹介するぜ、大輝、

友達の翔だ。」

「松原大輝だ、宜しくな。」

「あのシンクロ召喚とかいう不思議なモンスターを使った人ツスね。宜しくツスー!」

こうして翔にシンクロ召喚について説明しながら帰った。

寮

エミリア「ねえ大輝、私達も決闘していいかな?」

突然そんなこという精霊達。答えは決まっている。

「ああ、別に構わない。」

俺は部屋にある大きな段ボール箱を持ってきた。

「やり方はいつも見ていたから知っているだろ。必要ならアドバイスをやる。」

カーム「マスター、ここはどんなモンスターを入れたらいいでしょうか。」

「ここは墓地絶やしができるこいつがオススメだな。あとはリクルーターも入れておけばいいかも。」

エミリア「ねえ、大輝…魔法カードなんだけど…。」

「相手を弱体化させるならこのカード、自分を強化するならこのカードはどうだ!？」

そうしてカームとエミリアのデッキは完成した。

「よし、今から二人で決闘…(pppp!)メールだな。」

(やあ、ドロップアウトボーイ!シンクロモンスターとやらをか
けてアンティールで勝負といこうか。十代と明日の朝決闘場に来
い!!)

万丈目だな。さてよ……

「カーム、エミリア、明日決闘万丈目達と決闘するんだが来るか！？」

カーム『行きます。』

エミリア『デッキを試したいしね！』

よし、万丈目に取り巻きを後二人用意しろと送っておいた。

あとは…

「大輝！！いるか？」

十代が来たか。さっき呼び出ししておいたのだ。

「どうしたんだ？呼び出したりして。」

「万丈目からメールがきただろ？」

十代はうなづく。

「その前に十代に渡ししておきたいものがあってな、こいつらはお前なら使いこなせるだろう。」

俺は十代にエアーマン、オーシャン、フォレストマン、ザ・ヒー
ト、ジ・アース、ガイア、シャイニング、zero、great
ornado

、ノヴァマスターを三枚づつ渡した。

「すげえ、ありがとうな！！大切に使うな！！」

「カームとエミリアも決闘するようになったんだ。デッキ調整もかねて練習相手になってやってくれ。」

「おう、任せとけ！！決闘だ！！」

カーム『負けませんよ！！』

エミリア『負けないわよ！！』

こうして4人は決闘を楽しんだ。

精霊（後書き）

次回万丈目達との決闘です。

カーム『ついに私達も決闘できますね。』

エミリア『これも大輝のおかげだね！！』

ちなみに彼女達にもいくつかのデッキを持たせたいと思います。

キャラクター紹介（前書き）

今回はキャラクター紹介です。

キャラクター紹介

松原大輝

(まつばらひろき)

15歳

現実世界でカードショップに行っているときに転生してしまった。薄い茶髪で中々のイケメン。道に落ちていたガスタの静寂カームのカードとリチュア・エミリアのカードを引き取ったため、精霊がついた。

精霊達に好意を持たれているが、大輝も彼女達に好意を持っている！？

カーム

(ガスタの静寂カーム)

15歳

リチュア・エミリアとともに道に捨てられていたところを大輝に引き取られた。緑色のポニーテールのおとなしい性格で常に敬語。大輝に対して好意を抱いている。最近実体化している。エミリアとは親友である。

エミリア

(リチュア・エミリア)

15歳

ガスタの静寂カームとともに道に捨てられていたところを大輝に引き取られた。赤いツインテールに黒の魔法帽子をかぶっている。

活発な性格でカームとは正反対である。カーム同様、大輝に好意を抱いている。カームとは親友である。

キャラクター紹介（後書き）

今回はv s万丈目& a m p・ブルーです。キャラごとに章を分けます。

V S 万丈目一味 (前編) (前書き)

今回は万丈目一味と精霊達が戦います。

V S 万丈目一味 (前編)

翌朝

「来たな!! ドロップアウトボーイ!!」

万丈目と取り巻きが三人いた。

「逃げなかつたのは誉めてやる。さあ決闘だ。その前に松原大輝!
! その小娘共は誰だ!? 制服を着てないじゃないか!!」

エミリア『誰が小娘よ!!』

「こいつらは俺の精霊なんでね。馬鹿にするのは止めてもらおう
か。」

「ふん、まあいい。お前達、相手を選べ。」

取り巻きA「万丈目さん、俺はドロップアウトボーイとやります。」

取り巻きA、かわいそうに。チートドロウを拝めるぞ。

取り巻きB「なら俺は緑髪の女をやります!!」

取り巻きC「なら俺は赤髪の女で。」

取り巻きB、Cに指名されるカームとエミリア。

「……俺の相手は万丈目か。」

「ああ、ブルーにたてついたことを後悔させてやる!!」

「決闘!!」

Sideカーム

『私のターン、ドロウします。』

この手札は……私の勝ちですね。

『私は苦渋の選択を發動します。私はデッキからカードを5枚選
択します。私はあなたが選んだ1枚を手札に加え、残りを墓地に送
ります。私はダークジェロイド、ニユート、アーマード・ビー、キ
ラー・トマト、ドラゴンフライを選択します。』

「ふん、そんな使えないカード何の役に立つ！！キラー・トマトを加える。」

馬鹿ですね。墓地絶やしを役に立たないとは。ブルーが聞いて呆れます。

「私は今墓地に送ったニュートとダークジェロイドを除外してダーク・シムルグを手札から特殊召喚します。」

「何だと！？いきなり上級モンスターを特殊召喚 だと！？」

「さらに、キラー・トマトを守備表示で召喚します。カードを2枚伏せターンエンドです。」

「俺のターン、くくく、俺はゴブリン突撃部隊を召喚！！さらに装備魔法デーモンの斧を装備……何故発動しない！？」

「私はあなたのドローフェイズに魔封じの芳香と生け贄封じの仮面を発動させました。これらのカードによって、お互いに魔法カードをセットしてから発動しなければなく、生け贄ができなくなりました。さらにダーク・シムルグの効果は相手はカードをセットできなくなります。」

「何だと！？それじゃあ俺は……」

「はい、事実上魔法罫カードは発動できませんね。」

「そんな……くそ、俺はゴブリン突撃部隊を守備表示にしてターンエンドだ。」

「私のターン、ドローします。私は私はニュートを攻撃表示で召喚します。キラー・トマトを攻撃表示にしゴブリン突撃部隊を攻撃！ダーク・シムルグとニュートでダイレクトアタックです！！」

「うわあああ！！」

取り巻きB LPO

「私の勝ちですね。」

Side大輝

一回戦は快勝だな。あいつ弱すぎだろ。

??? 「成る程、ダーク・シムルグでセットを封じ、魔封じの芳香と生け贄封じの仮面で完全にロックする…恐ろしいコンボだ」

エアーマン!? いつの間にかいたんだ!?

「失礼なことを言われた気がするが…紹介が遅れたな。俺は三沢大地だ。あの娘達は?」

「俺は松原大輝だ。あいつらは俺の精霊だが実体化している。仲良くしてやってくれ。」

そうこう話しているうちにカームがやってきた。顔を真っ赤にして何か言いたげそうだ。

カーム「あ、あのマスター…勝ったので、頭なでなでして下さい
/ /」

「おう、よく頑張ったな、カーム。」ナデナデ
カーム「プシューノノノ」

顔が真っ赤を通り越している。三沢はきを遣ったのかどっか行っていた。

エミリア「あー!!カームずるいー!!」

「エミリアも勝ったら何かしてやるよ。」

「本当!?なら取り巻きC!!さっさと決闘よ!!」

何かとんでもないことさせられそうなきがする。

Sideエミリア

「俺のターン、八八八、俺は神獣王バルバロスを受協召喚する!
!効果で攻撃力は1900になるがな。カードを1枚伏せてターン
エンドだ。」

「私のターン、俺はスキルドレインを発動!!1000ライフ
払い、場の効果モンスターの効果は全て無効になる。バルバロスの
攻撃力は3000に戻る!!」サイクロンを発動!!スキルドレイン
を破壊するわ!!」

「何!?!だがバルバロスは3000のままだぞ。」

『問題ないわ！！私は二重召喚を発動！！KA-2デス・シザースを召喚し、生け贄に捧げニードルバンカーを召喚！！』

私の場に青い機械の蠍が現れ、それが少しサイズの大きい赤い機械の蠍に進化した。

「フハハハ！！レベル5で攻撃力1700とは貧弱にも程があるな！！バルバロスの敵ではない。」

馬鹿だ。攻撃力だけが全てではないのに。ニードルバンカーも攻撃力だけなら低いかもしれない。だが、ライフポイント4000の世界ではこの効果は強力極まりない。私が攻撃力だけが全てではないこと教えてあげるわ。

『カードを1枚伏せターンエンドよ。』

「俺のターン、ドロロー！！チツ、バトルだ。バルバロス、そのモンスターに攻撃しろ！！」

『この瞬間速攻魔法リミッター解除！！効果により自分の機械族モンスターの攻撃力を倍にするわ！！』

ニードルバンカー 攻撃力3400

「だ、だがな、400ダメージしか喰らわないぜ。ニードルバンカーも破壊されるぜ。」

『甘いのよ！！ニードルバンカーは破壊したモンスターのレベル×500ダメージを与える。この意味分かるわね。』

「バルバロスはレベル8……まさか！？」

『ええ、あなたの負けね。迎撃しなさい！！ニードルバンカー！！』

「ぐあああああ！！」

取り巻きC LPO

Side大輝

エミリアも勝ったか。本当に弱すぎるな。エミリアがやってきて

きた 『あ、あの…大輝…勝ったよ!!』

「ああ、よくやったな!!」

ナデナデ

『大輝ノノノ…』

「カームもエミリアも初めてにしてはよくやった。さすがは俺の精霊だけあるな。まあ相手が弱すぎただけかもしれないが…」

『マスターノノノ（大輝ノノノ）』

あれこれしているうちに十代が始めようとしていた。

v s 万丈目一味 (前編) (後書き)

カーム『今回は私達の初決闘でしたね。』

エミリア『今日の最強カードはダーク・シムルグとニードルバンカーね。』

カーム『ダーク・シムルグはカードのセットを封じる効果が強力ですね。私のように魔封じの芳香を使えば魔法罫が使用できなくなります。墓地や手札からの特殊召喚も比較的容易です。ニードルバンカーは破壊したモンスターのレベル×500ポイントダメージを与えます。リミッター解除などに対応し、トーチ・ゴーレムを相手に特殊召喚して破壊すれば1キルも可能です。』

次回は十代と大輝が戦います。

vs 万丈目一味 (後編) (前書き)

今回は十代と大輝が戦います。十代のチートドロー 恐るべし！

V S 万丈目一味 (後編)

side 大輝

十代との決闘が始まった。

「ハンデだ、先行はドロップアウトボーイにやる。」

あゝあ、調子乗って先行を譲る取り巻きAよ、十代に先行譲ると何が起こるか分からないぞ。

「ああ、わかった。俺のターン、ドロロー!!へへ、大輝!!もらったhero早速つかわせてもらっぜ!!俺はE HEROエアーマンを召喚!!エアーマンの効果!!デッキからE HEROオーシャンを手札に加える。さらに融合を発動!!手札のオーシャンとスパークマンを融合!!E HEROアブソルートZERO!強欲な壺発動!!カードを2枚ドロローするぜ!!さらに融合を融合をもう1枚発動!!手札のバーストレディとフェザーマンを融合!!来い!!フレイムウイングマン!!ターンエンドだ。」

「……なあカーム、エミリア、これってまだ先行1ターン目だよな……」

カーム「え、ええそうですね」

エミリア「なんであんなにモンスターが並ぶのよ!!」

「すさまじいチートドロローだな……」

見てみるよ、取り巻きA顔真っ青だよ!!この世の終わりみたいな顔しているよ!!

「お、俺のターン、俺は、ゴブリン突撃部隊を守備表示で召喚しカードを2枚伏せてターンエンドだ。(伏せカードは攻撃の無力化とミラーフォース。まだ何とかなる)」

「俺のターン、ドロロー!!へへ、悪いな、魔法カード発動!!大嵐!!伏せカード2枚を破壊するぜ!!」

だから何でだよ!!?チートドロローみ体外にしるよ!ミラーフォー

スと無力化が落ちて取り巻きAもう半泣きになつてるよ!!

「さらに俺は融合解除発動!!アブソルートZEROを融合デッキに戻し、オーシャンとスパークマンを特殊召喚!!さらにZEROの効果発動!!このカードが場から離れた時、相手場のモンスターわ全て破壊するぜ!!ゴブリン突撃部隊を破壊するぜ!!」

「何……だと。」

「いくぜ!!総攻撃で止めだ!!」

十代、お前は悪魔か!!

「ガツチャ!!楽しい決闘だったぜ!!」

……取り巻きAよ……同情するぜ……。

さて、つぎは俺か。

「いくぜ!!万丈目!!」

「ふん、ブルーにたてついたことを後悔させてやる!!俺のターン、ドロー!!俺は地獄戦士を攻撃表示で召喚!!カードを1枚伏せてターンエンドだ。」

「俺のターン、ドロー!!」

ふふ、俺も十代のこと言えないな。

「俺はサイクロンを発動!!お前の伏せカードを破壊する!!」

「くっ……ミラーフォースか……。」 「さらに俺は未来融合フューチャーフュージョンを発動!!ワーム・ゼロを選択し、デッキから20枚のワームを墓地に送る。」

「そんなことしたらデッキにモンスターがいなくなるぞ!!」

「構わん!!俺はワーム・コールを発動!!効果により相手場にモンスターが存在し、自分場にモンスターが存在しないときワームとつくモンスターを場にセットする!!俺はモンスターをセット!!」

「そんなことしたらデッキにモンスターがいなくなるぞ!!」

「構わん！！俺はワーム・コールを発動！！効果により相手場にモンスターが存在し、自分場にモンスターが存在しないときワームとつくモンスターを場にセットする！！俺はモンスターをセット！！」

「壁モンスターか！？」

「俺は太陽の書を発動！！効果で今伏せたモンスターを攻撃表示にする！！攻撃表示となったワーム・ヴィクトリーの効果発動！」

「レベル7のリバース効果だ！？」

「ヴィクトリーのリバース効果により、場のワームとつくモンスター以外の表側表示モンスターを全て破壊する！！」

「何だと！？」

「さらにワーム・ヴィクトリーは墓地のワーム1体につき攻撃力が500ポイントアップする！！よって攻撃力は10000になる！！ワーム・ヴィクトリーで止めだ！！」

「ぐわああああ」 万丈目LP0

「なぜだなぜ負けた！！」

「自分のカードを信じないからさそうたる金髪！！」

「????」（気づいてたの!?）わ、私はただ見てただけよ！！それに金髪ではなくて明日香よ！！そしてその娘たちは誰!?」

明日香がカームとエミリアをさして言う。

「彼女達は俺の精霊だ。今は実体化している。」

カーム『カームです。よろしくお願いします。』

エミリア『エミリアよ。よろしくね。』

明日香と精霊達が自己紹介している。万丈目は帰ったみたいだ。

vs 万丈目一味 (後編) (後書き)

カーム『今回はE HEROアブソルトZEROとワーム・ヴィクトリーを紹介します。』

エミリア『ZEROは場を離れるだけでサンダーボルトとなるわ。したがって融合解除と組み合わせるとモンスターを一掃できる上、追撃も可能よ。』

カーム『ワーム・ヴィクトリーはリバース効果により場のワームとつくモンスター以外の表側表示モンスターを全て破壊します。また、墓地のワームとつくモンスター1体につき、攻撃力は500ポイントアップします。』

エミリア『皆既日食の書や浅すぎた墓穴、未来融合と相性は抜群ね』

次回は翔の事件です。

V S 明日香軍団（前編）（前書き）

翔の覗き編です。オリカが多数登場します。

V S 明日香軍団（前編）

俺は今、十代と女子寮に来ている。どうしてこうなったんだ！？

数時間前

俺は今、校長室にいる。校長を俺が呼んだのだ。

「で、話とは何かな。松原君？」

「はい、このことです。出てこい！」

2枚のカードを取りだし、そう言うとカードが光り、光が収まるとカームとエミリアがいた。

「な、何だねその娘たちは！？」

校長…ひっくり返るほど驚かなくても…。

「彼女達は俺のカードの精霊なんです。今実体化しています。」

「な、なるほど。」

「そこで、お願いがあるのですが、彼女達がアカデミア内で実体化していたらしくて許可をもらいに、ちなみに彼女達も決闘できますよ。」

カーム『お願いします。校長先生！！』

エミリア『お願い！！先生！！私達も決闘したいの！！』

「ふむ、いいでしょう。いろいろな人と決闘するのは大切なことです。ただし面倒はみてくださいね」

「ありがとうございます。校長先生！！」

カーム『ありがとうございます。校長先生！！』

エミリア『ありがとね！！先生！！』

「いえいえ、これからも頑張つて下さい。お嬢さん方は何と呼べ

ばよろしいかな？」

カーム『カームと呼んで下さい。』

エミリア『エミリアでいいわよ！！』

「ではカームさん、エミリアさん、よろしくお願いしますね。」

カーム・エミリア『よろしくお願ひします』

こうして校長との親交が深まった。

その夜

「大変だ！！大輝！！翔がさらわれた！！」

女子寮イベントか。面白い、今日はこいつらを使うか。

「わかった、直ぐ行くぞ！！カームとエミリアも行くぞ！！」

カーム『わかりました。』

エミリア『わかったわ。』

女子寮

俺たち4人は女子寮に着いた。すると捕まった翔と明日香それに
ジュンコとももえがいた。

「あつアニキ、大輝君助けてほしいっす！！」

「おい明日香、翔が何かしたのか？」

するとジュンコが

「そいつが女子寮を覗いたのよ！！」

「翔：お前いくら欲求不満だからってそんなことを…見損なつた
ぞ！！」

「違うっすゝ話を聞いてっすゝ！」

話を聞いたところ偽ラブレターに呼び出されたらしい。呆れても
の言えない。すると明日香が

「だから決闘しない？ 私は十代と戦うわ。その後には大輝とも。あとカームとエミリア、だったかしら。貴女達はジュンコとももえとのタッグ決闘でどう!?」

面白い。受けてたとうじゃないか。そうして決闘は幕を開けた。

「いくぜ!! サンダージャイアントでダイレクトアタック!!」
十代が勝ったみたいだ。エアーマンが過労死していたが気にしないでおこう。

「さあ大輝、次は貴方と決闘よ!!」
そうして決闘は始まった。

「俺のターン!! ドロー!! 俺は永続魔法Aフィールドを発動!!
! お前の場のモンスターは光属性になる!! さらに俺はA・O・J
コアデストロイを攻撃表示で召喚!!」

Aフィールド(オリカ) 永続魔法 このカードの効果は自分場上にA・O・Jと名のつくモンスターが存在するときに適用される。相手場上のモンスターは光属性として扱う。また、自分場上のA・O・Jと名のつくモンスターが光属性モンスターと戦闘を行う場合、相手はダメージステップ終了時まで魔法・罫カードを使用できない。

「ふん、大口叩いておいて攻撃力たった1200じゃない。」
ジュンコがそう言う。おいおい、攻撃力が全てじゃないぜ!! それを証明してやるよ。

「俺はターンエンドだ。」

「私のターン、ドロー!! 私はエドワール・サイバーを召喚!!
バトル!! エドワール・サイバーでコアデストロイを攻撃!!」

エドワール・サイバーがコアデストロイに攻撃した。ところがコ

アダストロイがビームを放ち、エドワール・サイバーは爆発した。
明日香は驚愕している。

「な、何で破壊されないの！？それにどうして攻撃力が上のエドワール・サイバーが破壊されたの！？」

「コアデストロイの効果だ。光属性モンスターと戦闘を行う場合、ダメージ計算前にそのモンスターを破壊する。つまり光属性との戦闘では無敵だ。さらにAフィールドの効果でお前の場のモンスターは光属性になる。」

「なんですって！！」

「つまり、お前はAフィールドを破壊するかカードの効果で破壊するしかないな。」

「くっ…（これじゃあドゥーブルパッセも意味がない。）カードを2枚伏せてターンエンドよ。」

「俺のターン、ドロー！！ふむ、俺は永続魔法Oフィールドを發動！！」

Oフィールド（オリカ） 永続魔法 このカードの効果は自己身上にA・O・Jと名のつくモンスターが存在するときに適用される。相手の手札とデッキ、エクストラデッキのモンスターは全て光属性として扱う。また、光属性モンスターの効果は無効化される。

「このカードにより、お前の手札とデッキ、エクスじゃなかった融合デッキのモンスターは全て光属性になる。そして光属性モンスターの効果は無効化される。俺はA・O・J D・Dチェッカーを召喚！！バトルだ！！コアデストロイとD・Dチェッカーでダイレク

トアタック!!」

「リバーズカードオープン!!」無駄だ!! Aフィールドの効果でお前はダメーjistテップ終了時まで魔法・罠を発動できない!!」
「なんですって!! きゃああああ!!」

明日香LP1100

「俺はターンエンドだ。」

「私のターン!! ドロー!! 来た! 私は融合を発動!! 手札のエドワールサイバーとブレードスケーターを融合!! サイバーブレイダーを召喚!!」

しかし、決闘ディスクにはエラーと表示されていた。

「ど、どうして召喚できないの!？」

「D・Dチエツカーの効果だ。このカードが場に存在するとき、お互いに光属性モンスターを特殊召喚できない。そしてお前はオフィールドの効果で手札、デッキ、融合デッキのモンスターが光属性となっている。すなわちお前のサイバーブレイダーは召喚できない!!」

明日香side

強い。ただそれだけだった。十代もさっきの決闘で十分強いといえるだろう。だが彼はさらにその上を行く。2体の下級モンスターと2枚の魔法カードだけで完全に動きを封じられてしまった。彼のモンスターは2体とも光属性のみに影響する効果。つまり、相手が光属性を使わなければ全く意味をなさない。しかし、あの2枚の永續魔法カードによって私は戦闘及び特殊召喚を封じられたのだ。強い。認めざるを得なかった。

翔side

あの女の子達、アニキから聞いた話だと大輝君の精霊だったんスね。そして大輝君、強いッスね。アニキが苦戦した明日香さんをたつた2体のモンスターで圧倒してるッス！！恐ろしいッス。

「わ、私はモンスターをセットしてターンエンドよ！！（セットモンスターはマシユマロン。まだ耐えられる。）」

考えたな明日香、セットでモンスターを出せばコアデストロイは回避できるとみたか。

「俺のターン、ドロー！！俺は永続魔法Jフィールドを発動！！」

Jフィールド 永続魔法 このカードの効果は自分場上にA・O・Jと名のつくモンスターが存在するときに適用される。相手の墓地のモンスターは全て光属性として扱う。また、1ターンに1度、手札又は墓地からレベル4以下のA・O・Jと名のつくモンスターを特殊召喚できる。

「このカードの効果でお前の墓地のモンスターは全て光属性として扱う。さらに1ターンに1度、俺は手札又は墓地からA・O・Jを特殊召喚できる。手札からチューナーモンスターA・O・Jサイクロン・クリエーターを特殊召喚！！明日香、お前は知っているだろう。シンクロ召喚。それを見せてやるよ。」

「来るのね、未知の召喚方法、シンクロ召喚！！」

「ああ、そしてこのデッキの切り札だ。俺はレベル3のサイクロン・クリエーターにレベル4D・Dチェッカーとレベル3コアデストロイをチューニング！！正義の名の元最強兵器が作動する。殲滅せよ！！A・O・Jディサイズ・アームズ！！」

「レベル10ですって!？」

「デイサイシブ・アームズでセットモンスターに攻撃!!」

「くつ、セットモンスターはマシユマロンよ、効果で1000ダメージよ、失敗したわね。コアデストロイを残してたら勝っていたのに。迂闊ね。」

大輝LP3000

「それはどうかな。お前のマシユマロンはもう表だぜ!!デイサイシブ・アームズの効果発動!!相手場に光属性モンスターが存在するとき3つの効果のうち、1つを発動できる!!俺は3つ目の効果を発動!!手札を全て墓地に送り、相手の手札を確認する。その中に光属性モンスターが存在するときそれらを全て墓地に送り送ったモンスターの攻撃力の合計分のダメージを与える!!明日香、お前の手札にはオフィールドで光属性になっているエドワール・サイバーとブレードスケーターがあつたよな?」

「まさかそのためにマシユマロンに攻撃を!？」

「そうさ!!こいつの効果は強力だが相手の場に光属性モンスターが存在しないと発動できない。だからあえて攻撃させてもらった。もしマシユマロンではなく他のモンスターであつて破壊してしまったら、次のターンに死者蘇生で展開できていたからな。効果でエドワール・サイバーとブレードスケーターを墓地に送り、明日香のライフは0だ!!」

明日香LP0

明日香side

あれがシンクロ召喚であり、彼の切り札。それにしても恐ろしい効果ね。○フィールドで相手の手札を全て光属性に変え、効果で大ダメージ。単純だけど協力ね。

「ふん、まぐれで勝ったからって調子乗らないことね!!」

「そうですね!!あんな卑怯なカード使って、勝てて当たり前ですわ!!」

卑怯っていわれてもなあ、そういうデッキだし。精霊達も怒ってるよ。

カーム『ジユンコさんにももえさんでしたっけ、あまりマスターを馬鹿にしないでもらえますか?』

エミリア『そもそも決闘もしてないくせによくそんな口が言えるわね!!』

「ふん、精霊だがなんだが知らないけど、私達の強さを教えてあげるわ!!」

こうしてカーム&エミリアvsジユンコ&もえのタッグ決闘が始まった。

V S 明日香軍団（前編）（後書き）

カーム「今回はオリカが登場しました。どれもA・O・Jでは重要ですね。さて、今日はA・O・J・デイサイシブ・アームズについて紹介します。」

エミリア「レベル10のA・O・Jで光属性モンスターが存在するとき、セットカードを1枚破壊するか手札を1枚墓地に送り相手場に存在する魔法・罠カードを全て破壊するか手札を全て墓地に送り、相手の手札を確認してその中は光属性モンスターを全て墓地に送り、攻撃力の合計分のダメージを与えるか1ターンに1つ発動できるわ！！オリカの3つの永続魔法と組み合わせると非常に強力ね！！」

カーム「次回は私とエミリアがタッグ決闘をします。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2874z/>

転生者の波乱生活

2011年12月26日01時00分発行